

学生による企画提案活動支援事業活動報告

事業名	げんき村 15 丁目わんぱく通り
団体名 代表者	高松大学 発達科学部 子ども発達学科 村長 都丸 香 織
事業の目的	高松大学・高松短期大学大学祭で開催される「げんき村 15 丁目わんぱく通り」というイベントを主な活動としています。私たち学生が主体となり、子どもたちが日常では体験することのできない遊びを考案し、地域の子どもたちを楽しんでもらっています。また、引率して来られた家族の方々と一緒に楽しんでもらう場を提供することを目的としています。
事業概要	地域の乳幼児や児童に楽しんでもらえる遊びの創造を目的に、毎年テーマに沿った様々な催し物を企画・製作・運営しています。平成 20 年度から始まり、今年で 15 回目（15 丁目）となります。子育て支援に係る、県や市町、関係機関・団体等が主催する学外のイベントにも「出張げんき村」として参加しています。

成果（参加人数等を具体的に記載してください）

今年度の大学祭における「げんき村 15 丁目わんぱく通り」は、コロナ禍の影響でお祭りを楽しめないでいる子どもたちに、テーマを「へいらっしゃい！住人たちがつくるお祭りだゾ！」とし、祭りの縁日の遊びを大学構内に再現しました。今年度は、大学祭自体が3年ぶりの開催であったことから、中心となって企画・準備・運営した3年生にとって、企画・運営の様々な面で分からないことだらけでしたが、コロナ感染防止対策も含め、皆で試行錯誤しながら準備を進めました。また、メイン会場では整理券を発行して予約制をとって入場制限をするなど、コロナ感染防止対策を講じての運営に、これまでの大学祭にはない苦勞がありました。様々な状況を予想して、計画を立てて協力して実行していく対応力を身に付けることができました。

当日は、2日間で少なくとも1,000名を超える人たち（主に未就学児や保護者の方々）に会場いただき、子どもたちには様々な遊びを楽しんでもらいました。中には、両日とも来てくださった方もいて、とても嬉しかったです。用意した遊びは、2号館の1・2F や芝生広場に各コーナー・ブースを設けて、「的当て」「魚釣り」「輪投げ」「空気砲」の各種ゲーム、スタンプング等の技法を使った「オリジナルうちわづくり」、「絵本の読み聞かせ」、さらには芝部広場でのジャグリングや昔遊びなどです。

こうした地域の子どもたちへの“遊び”を通しての子育て支援活動は、子どもたちの学びの基礎となる好奇心や探求心を育くみ、他者との関わりを通してコミュニケーション能力を育成するだけでなく、将来子どもたちの保育や教育に携わる職業に就くことを目指している私たちの貴重な実践の場となりました。

げんき村は、来年度で16年目を迎えます。この間、一昨年は、コロナ禍のため大学祭や学外イベントはことごとく中止となったことから、げんき村から声をかけ、「げんき村わんぱく造形遊び」として近隣の保育所、幼稚園に出かけて行って造形遊びを行いました。昨年度は、この”げんき村わんぱく造形遊び”さえ行うことができずでしたが、今年度は、コロナ禍の中で様々な感染対策を行いつつ大学祭でのげんき村の活動を無事行うことができ、さらには、2月には高松市こども未来館での出張げんき村も実施することができました。

こうした経験を生かし、来年度以降も継続して、地域の子どもたちに遊びを提供するとともに、私たちの学びの場でもあるげんき村の活動を充実・発展させていきたいと思ひます。（写真は大学祭での様子です）

